図書館だより

6月号

2022年6月１５日
安田小学校図書室

５年生で年鑑（朝日ジュニア学習年鑑/朝日新聞出版）の使い方を学ぶ授業がありました。年鑑を初めて手にする児童がほとんどでしたが、人口や教育などの身近な問題が統計になっていることに面白さを感じたようでした。インターネットは速報性があり検索もできるので便利ですが、年鑑を読むことで、世の中で重要となっているテーマは何かを知ることができます。新聞とともに、高学年ではぜひ手にとってほしい資料です。

しおりについて

図書室では、貸出の時にしおりに返却日を記入して渡しています。このしおりはスタンプカードにもなっていて、5個スタンプがたまると、一度に2冊本を借りることができます。

しおりは読書冊数の記録として保存するため、カードリングやリボンなどで束ねてご利用ください。しおりの枚数がたまると「これだけ読んだ」という自信につながり「もっと読もう」という意欲を持つことができます。

５月の図書館だよりで、本が傷んでしまったときに、それを伝えられるようになってほしいと書きました。そのあと、子どもが傷んだ本を図書室にもってきてくれることが増えました。きっと、多くのご家庭で本の話をしてくださったのだと思います。しかも、もってくる子供たちが、私の顔をまっすぐ見て「ここが破れているので直してください。」と伝えてくれるのです。破れた本をそのままにしないことは「正しいことをしたい」という子どもの心を大切にすることだと改めて教わりました。ご協力ありがとうございました。

自分の心も人の心も大切に

自分の心を大切にできていますか？自分の心を大切にすると、人の心も大切にできます。優しい気持ちがあふれると、みんなが安心して毎日を過ごすことができます。今月おすすめする本は、大人が読んでも心を動かされるものばかりです。家族で読んでみてください。

『ええところ』
くすのきしげのり/作　学研教育出版

わたしには「ええところ」なんか一つもない。そう思ったらなみだが出た。でも、ともちゃんが、わたしの手はクラスで一番あったかいって教えてくれた。

そのままの自分をのことを好きになれる、そしてだれかの「ええところ」をみつけたくなる１冊。

『生きる』
谷川俊太郎/詩　福音館書店

６年生の国語の教科書にものっている詩『生きる』をもとにした絵本です。あたりまえの毎日がとても大切に思えてきます。他の人も同じように大切な毎日があることが感じられるといいですね。

『わたしのいもうと』
松谷みよ子/文　偕成社

4年生でいじめにあった妹は、学校にいかなくなり、心を閉ざしてやせおとろえていった。でもいじめた子たちはそれを忘れ、、楽しく学校に通っている。

作者に届いた一通の手紙をもとに書かれた悲しい絵本。あとがきにある、いじめは差別に、差別は戦争へつながるという言葉が重い。

『ひとりひとりのやさしさ』 BL出版
ジャクリーン・ウッドソン/文
E・B・ルイス/絵　さくまゆみこ/訳

転校生のマヤを友達と馬鹿にしつづけていたある日、マヤは学校に来なくなった。ちょうどその日、先生は教室に水の入ったおけをもってきて、そこに小石を落としながらみんなに話しかけた。「わたしたちひとりひとりのちいさなやさしさが、さざなみのようにせかいにひろがっていくのです」。

『せかいのひとびと』
ピーター・スピアー/絵・文
松川真弓/訳　評論社

わたしと他の人は違う。体も、好みも、信じている物も、言葉も…世の中に全く同じ人は一人もいない。すみずみまで描かれたたくさんのイラストをながめるうちに、だれもがちがって、それぞれがかけがえない一人だということに気づかされる大型絵本。

『今、世界はあぶないのか?差別と偏見』
ルイーズ・スピルズベリー/文
ハナネ・カイ/絵　大山泉/訳　評論社

肌の色や宗教を理由に、なかま外れにされたらどんなに悲しく腹が立つでしょうか。この本は世界人権宣言の考えをもとにして、差別や偏見とはどういうことなのか、どうしたらだれもが安心してくらせる世の中にできるのかがわかりやすく書かれています。